タイトル

ファニーたい焼きトム５ 温泉卵

あらすじ

日本都内の下町にひっそり佇むたい焼き屋『たい焼きトム』。店主の陽気なアメリカ人トムが次々と独創的なたい焼きを生み出し話題を呼ぶ中、今回の新作はまさかの『温泉卵たい焼き』！ 斬新すぎるアイディアに戸惑うバイト店員の魚住。果たして味は？売れ行きは？評判は？笑いと感動、そしてとろ～りとろける温泉卵が織りなすハイテンションコメディ！

登場人物

トム（30代前半・男）

店主。エンターテイナー気質で、陽気な性格。常にお客さんを驚かせるたい焼きを考えることが生きがい。

魚住（20代前半・女）

バイト店員。日本人で、たい焼き愛が強い。トムの奇抜なアイデアに毎回困惑しつつも、最終的には協力。接客スキルが高いが、心配性。

謎の男（40代後半・男）

隣町のたい焼き屋の店主。スパイとして来店する。

トムの大胆すぎるアイデアに
驚愕し、完敗を認める。

脚本

シーン1: オープニング（店舗内）

【画面】朝日が射し込むたい焼き屋。外観は古風な日本家屋風だが、店内はカラフルなポスターやネオンが飾られ、異国情緒が漂う。

トム（元気よく、カメラ目線）「グッドモーニング、みんなー！今日も『たい焼きトム』は開店だ！さあ、ファニーなたい焼きを楽しむ準備はできてるかい？」

トムがバックフリップで厨房に入る。

魚住（驚いた表情で）「ちょっと待って、トムさん！そんなテンションで朝からお客さん来るんですか？」

トム（ニヤリと笑い）「もちろんさ！今日の新作たい焼きは、世界を震撼させるぞ！」

魚住（怪訝な顔で）「また変なの考えたんですね……。なんですか、今日は？」

トムが冷蔵庫から温泉卵を取り出し、高々と掲げる。

トム（高らかに）「その名も……『温泉卵たい焼き』！とろ～りとした黄身が甘じょっぱく、お口の中でハーモニーを奏でる！」

魚住（呆れた表情で）「いや、それ普通に失敗作になりそうなんですけど……。」

トム（真剣な顔で）「ノンノン、魚住。このたい焼きには夢が詰まってるんだ！さあ、試作を始めよう！」

シーン 2: 試作（厨房）

【画面】粉だらけの厨房。トムがテンション高く生地を混ぜている。

魚住（ため息をつきながら）「トムさん、その卵、焼いてる間に爆発しませんよね？」

トム（片眉を上げて）「可能性はゼロじゃない。でも、そのリスクこそエンタメの醍醐味だ！」

トムが型に生地を流し込み、温泉卵を慎重に乗せる。その動作はまるで美術品を扱うような丁寧さ。

魚住（やや呆れて）「美術品みたいに扱ってますけど、これ食べ物ですよ？」

トム（情熱的に）「食べ物はアートなんだ、魚住！味と見た目の両方で人を感動させるのが僕の目標さ！」

突然、たい焼き器からプシューッと蒸気が漏れる音がする。

魚住（慌てて）「ほらー！言わんこっちゃない！」

中から溢れ出す黄身。金色に輝くような黄身がじわじわと流れ出し、キラキラと光る。

トム（目を輝かせて）「見てごらん、魚住！これが黄金のたい焼きだ！」

魚住（眉間にしわを寄せ）「どこがですか……ただの失敗じゃないですか。」

シーン3：お客さんの反応（店内）

【画面】昼下がり、店内が賑わう。

常連客の田中さん（60代男性）が挑戦。

田中（疑い深い顔で）「温泉卵のたい焼き？変わってるなぁ。」

トム（満面の笑みで）「試してみてよ！人生は冒険だ、田中さん！」

田中が一口食べる。黄身がとろりと流れ出し、驚いた表情。

田中「……おお、意外と美味い！甘じょっぱさが癖になる。生地のほんのり甘さと卵の濃厚な塩気が絶妙だ！」

次に女子高生のグループが挑戦。

女子高生A（スマホを構えながら）「これ、絶対インスタ映えする！」

女子高生B「黄身が流れる瞬間撮りたい！」

女子高生C（食べながら）「ヤバい、これ新食感すぎて頭が追いつかない……！」

黄色い歓声が上がり、次々と写真が撮られる。

サラリーマン風の男性が恐る恐る口にする。

サラリーマン（感動しながら）「仕事疲れが吹き飛ぶ味だ……！生地のふわっと感と黄身のクリーミーさ、最高だ！」

主婦たちも興味津々で並ぶ。

主婦A「意外に美味しいわね！これ、子どもたち喜びそう！」

主婦B（笑顔で）「今度ホームパーティーで買おうかしら！」

主婦C（感心して）「生地が温泉卵を包んでくれて、絶妙なハーモニーね！」

【追加のお客】

学生A（興奮して）「これ、超バズりそう！うちのサークル全員連れてきたい！」

観光客B（外国語で）「ディス イズ ソー デリシャス！」

観光客C（翻訳しながら）「トムさん、友達も呼んでいいですか？」

シーン4：クライマックス（店内）

【画面】夕方、たい焼きトムの店内は大盛況。並ぶお客さんの列が店外まで続い

ている。厨房ではトムと魚住が忙しそうにたい焼きを焼いている。

魚住（額の汗を拭きながら）

「トムさん、注文追いついてないですよ！温泉卵たい焼き、こんなに人気になるなんて聞いてないですから！」

トム（楽しそうに笑いながら）

「魚住、人生は予測不能な冒険さ！さあ、次のたい焼きは、もっと丁寧に焼こう！お客さんが待ちきれないぞ！」

トムがたい焼き器を開けると、見事に焼き上がったたい焼きの中から黄身がとろりと溢れそうになる。輝く黄身にライトが当たり、キラキラと光を放つ。

トム（目を輝かせて）

「見てごらん、魚住！この黄金の輝き！これぞ、たい焼きの革命だ！」

魚住（疲れた表情で、それでも笑顔を浮かべて）
「もう、トムさんの熱意にはついていけませんよ……。」

【画面】客席。新たに並んだのは隣町から来たとおぼしき中年男性。コートを着込み、サングラスをかけた風貌。怪しげな雰囲気を漂わせている。

謎の男（低い声で）
「ここが噂の『温泉卵たい焼き』の店か……。」

男はサングラスを外し、鋭い視線で店内を見回す。客の笑顔や歓声に気圧されつつも、無表情を崩さない。

トム（男に気づいて、満面の笑みで）
「いらっしゃいませ！どうぞ、温泉卵たい焼き、試してみてください！」

謎の男（やや警戒しながら）
「一つ頼む……。」
魚住が慎重にたい焼きを手渡す。男が恐る恐る一口食べると、黄身がとろりと流れ出す。その瞬間、男の表情が一変する。
謎の男（驚愕して）
「……これは……！まるで黄身が生地と一体化し、絶妙なハーモニーを奏でている！こんなたい焼き、見たことがない……！」
周りの客が拍手と歓声を上げる中、男はトムに近づく。
謎の男（小声で）
「実は俺、隣町のたい焼き屋の店主だ。この味を確かめにスパイとして来た……だが、正直に言おう。お前の才能には完敗だ。これだけの味、俺には真似できない……！」

トム（ニヤリと笑い、肩をすくめて）
「ヘイ、隣町の店主さん。たい焼きに大事なのは、ただの味じゃない。情熱と、みんなを驚かせたいっていうファニーな心さ！」

謎の男（一瞬驚いた表情を見せ、苦笑して）
「ファニーな心、か……。参考にさせてもらうよ。ありがとう。」

男が店を出るとき、トムが陽気に手を振る。

トム
「また来てくれよ！次はもっとファニーなたい焼きを用意して待ってるからさ！」

【画面】満員の店内に笑顔が溢れ、陽気な音楽が流れる。トムと魚住が引き続き忙しく働く姿が映し出される。客たちは

それぞれ、たい焼きを食べながら笑顔で話している。

【シーン転換】店の外。夕焼けが空を染め、トムと魚住の店から漏れる温かい光が街に溶け込む。隣町の店主が振り返り、もう一度店の看板を見る。その顔には微かな笑みが浮かんでいる。

エンディング: 明日も温泉卵たい焼きを！

【画面】閉店後のたい焼きトム。店内は片付けが進み、厨房のライトがほのかに点いている。

魚住（疲れた顔で椅子に座りながら）
「今日もすごい一日でしたね……。あの温泉卵たい焼き、意外と売れましたけど、正直疲れましたよ。」

トム（陽気に片付けながら）
「いやー、最高だったね！あれだけの笑顔が見られるなら、この疲れなんてちっぽけなもんさ！」

トムが振り返り、真剣な顔で魚住を見る。

トム
「魚住、僕は明日も温泉卵たい焼きを作るぞ！もっとたくさんの人に、この奇跡の味を届けたいんだ！」

魚住（目を見開いて驚く）
「ちょっと待ってください！あの卵を仕込むのにどれだけ手間がかかると思ってるんですか？しかも仕入れも高いし、そもそも焼くのも難しすぎるんですよ！」

トム（ポーズを取りながら）
「困難こそが僕の燃料だ！そうだ、もっと改良して、さらにとろける黄身を……！」

魚住（大きなため息をつきながら立ち上がる）

「いやいや、もう十分ですよ。これ以上無理したら店が破産しますって……。」

トム（少し落ち込みながらも）

「うーん、確かに材料費もかかるし、魚住が言うことも一理ある。でも……でもさ、あの笑顔を見たらやめられないよ。」

魚住（トムの情熱に少し感動しつつも、諭すように）

「トムさん、今日の成功を喜びましょう。でもたまには現実も見ないと、笑顔だけじゃお店はやっていけませんよ。」

トムが大きなため息をつき、天井を見上げる。

トム（大げさに、手を広げて）

「わかったよ、魚住……。じゃあ、明日は普通のたい焼きに戻そう。でも、また

新しいアイデアが浮かんだら、試してい
い？」

魚住（苦笑しながら）
「はいはい、わかりましたよ。ただし、
次はもっと簡単で低コストなやつにして
くださいね。」

トム（子どものような笑顔で）
「よっしゃ！それじゃあ、明日の新作
は……『メープルシロップたい焼き』だ！」

魚住（頭を抱えながら）
「だから、コストが高いって言ってるじ
ゃないですかー！」

【画面】トムの明るい笑い声が響き、魚
住が苦笑する中、店内のライトが一つず
つ消えていく。店の外には満月が輝き、
暖かい光が店を包み込む。

【エンドクレジット開始】

「ファニーたい焼きトム」の看板が映し出され、背景には笑顔の客たちの写真がスライドショーのように流れる。最後に、トムが親指を立ててウインクする姿で幕が下りる。

（完）